

令和5年11月24日5校時

指導者 村田 優子 (T1)
田中 秀明 (T2)
佐々木 麻弥 (T3)
教育支援員 下地 今日子 (T4)
上田 恵 (T5)

1. 単元名 「七小のみんなに^{らっかせいりょうり}落花生料理をしょうかいしよう！」

2. 単元について

(1) 単元観

学級の実態からひまわり1組・知的障害特別支援学級（以下、知的学級）、ひまわり2組、3組・自閉症・情緒障害特別支援学級（以下、情緒学級）の1年生5名、2年生2名、3年生2名、4年生3名、5年生4名、6年生4名の20名を対象として生活単元学習・国語科の学習を位置づけ、取り組むようにする。

児童の実態から、知的学級は、特別支援学校小学部学習指導要領「生活」の「1段階及び2段階及び3段階 カ役割」、「国語」の「1段階及び2段階 A聞くこと・話すこと イ・ウ」及び「3段階 A聞くこと・話すことイ・カ」、「1段階及び2段階及び3段階 B書くこと ア」の観点で学習計画を立てる。

情緒学級は、小学校学習指導要領の「国語」の「第1・2学年及び第3・4学年」の目標と、特別支援学校学習指導要領の「自立活動」の「人間関係の形成・コミュニケーション」の観点で学習計画を立てる。

本学級の児童は、知的学級、情緒学級に関わらず、一緒に活動することが多い。朝の会、帰りの会、清掃、給食、行事等は学級や学年を超えて活動している。ひまわり学級の畑では、1学期に夏野菜を育て、夏野菜カレーにして食した。畑の活動を通して、長さや重さの学習、タブレット端末を利用した観察日記や看板づくりを学習してきた。また、自己紹介シートを作成して、自分の得意なことを紹介し合ったり、私の取扱説明書作りを通して自分や他人との違いを学んだりしてきている。このような活動を通して、ひまわり学級にどの学年のどのような友達がいるのかを認識してきている。しかしながら、相手に自分の思いをうまく伝えられなかったり、相手の立場を考えずに発言したりしてトラブルとなることも多くある。

このような実態から、知的学級と情緒学級の児童を交えて縦割りのチームを作り、小集団の中で自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受け入れたりする力を高められるようにする。異学年の友達と関わったり、身近な人との関わりを繰り返したりしながら、日常生活に必要な言葉の力を深めたり、自分なりに表現する力を養ったりしたい。また、様々な場面で協力し、認め合うことで自信と意欲につなげたい。

1年間を通して、学級・学年を超えて一人一人が他教科と関連して様々なことを学び、小集団の中で自分の思いをもち、より良い表現方法を身につけることができるように本単元を設定した。

(2) 児童の実態

知的学級の在籍児童は、1年生1名、2年生1名、3年生2名、4年生1名、5年生1名の計6名が在籍している。一人一人の実態に応じて交流先の学級での学習や週2～3回小集団での学習をしている。学年は違ってもお互いを気にしたり、上級生は下級生の面倒を見たりする姿が見られる。学習面では、集中して学習することはできるが、わからない時や困った時に教師や友達に言えずにそのままにしてしまうことがある。PC端末を使った学習は好きであり、学習アプリ等を通して慣れ親しんできている。

情緒学級の在籍児童は、1年生4名、2年生1名、4年生2名、5年生3名、6年生4名の計14名が在籍している。一人一人の実態に応じて教科の指導・支援や交流先の学級での学習を行っている。生活の場は2・3組で一緒であるが、学習の場は、1年生とその他の学年で学級を分けて行うことが多い。2学期に入り、上級生が下級生の面倒を見たり、声をかけたりする姿が見られるようになってきた。休み時間には学年関係なく遊ぶ姿も見られる。一方で、興味があることについて一方的に相手に話したり、相手の立場や場の雰囲気を考えずに発言や行動をしたりする場面も多くある。学習面では、集中力に關しての課題が大きい。そのため、普段の学習では、同じルーティーンの中で児童が安心して取り組み、集中を継続できるよう授業内容を設定している。単元計画や1時間の流れを具体的に示したり、ゲーム性のある活動を取り入れたりして意欲が継続するようにしている。「書くこと」は、特にストレスを感じる児童が多い。一方で、タブレット端末を使った授業が好きであり、意欲的に取り組むことができる。高学年はタブレット端末の扱いが得意であり、興

味がある。中学年は、ローマ字表を見ながら入力できるようになりつつある。低学年はタブレット端末に慣れてきて、写真を撮ったり、好んでプログラミングの学習をしたりしている。

このような実態から、ひまわり学級全体での学習を月8回程度、系統的に設定し、生活単元学習と基礎・基本的な国語やICT活用等の力をつけられるようにしている。また、話し合い活動を設定し、小集団の中で身近な仲間と協力したり、助け合ったりしながら学べるようにしている。

(3)指導観

知的学級		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性
言葉 経験したことや写真や本などから伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすることができるようにする。(1・2段階) 経験したことや調べたことから書きたいことを見つけ、必要な情報を集めることができるようにする。(3段階) 特別支援学校学習指導要領 国語 B書くこと ア	話し合い 身近なこと人からの話しかけに注目したり、応じて答えたりする。(1段階) 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声など自分なりに伝えることができるようにする。(1・2・3段階) 相手の話に関心をもち、思いや考えを受け止めることができるようにする。(3段階) 特別支援学校学習指導要領 国語 A聞くこと・話すこと 1段階及び2段階 イ・ウ 3段階 イ・カ	小集団での活動を通して、異学年の仲間を意識したり、協力したりしながら楽しく学習することができるようにする。 教師の援助を受け入れたり、求めたりしながら、自分の思いを伝えることができるようにする。 特別支援学校学習指導要領 生活 カ 役割
情緒学級		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性
言葉 経験したことから伝えたいことを明確にして、言葉で表現することができるようにする。 ローマ字・ICT操作 タブレット端末の基本操作ができるようにする。(低・中学年) タブレット端末の機能を活用し、相手により伝わりやすい表現を考えられるようにする。(高学年) 小学校学習指導要領 国語 (1) ア・オ B書くこと ア	話し合い 身近なことや経験したことから話題を決めて、相手に伝えることができるようにする。(低・中学年) ICT や本を活用して必要なことを調べ、相手に伝えることができる。自分の立場を考えて発言したり、意見をまとめたりできるようにする。(高学年) 小学校学習指導要領 国語 A話すこと・聞くこと ア・エ (低・中学年) A話すこと・聞くこと エ・オ (高学年)	小集団での活動を通して、異学年の仲間とより良いコミュニケーションをとりながら学習することができるようにする。 一つ一つの活動を通して、「楽しい」「できる」を感じられるようにし、最後(ゴール)までやり通すことで、学ぶことへの意欲と自信に結びつくようにする。 特別支援学校学習指導要領 自立活動 3人間関係の形成(4) 6コミュニケーション(2)(5)

3. 単元目標

知的学級

①経験したことや写真や本などから伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすることができる。(1・2段階)

②経験したことや調べたことから書きたいことを見つけ、必要な情報を集めることができる。(3段階)
 (《特別支援学校学習指導要領 国語 B書くこと ア》)

②身近なこと人からの話しかけに注目したり、応じて答えたりする。(1段階)

伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声など自分なりに伝えることができる。(1・2・3段階)

相手の話に関心をもち、思いや考えを受け止めることができる。（３段階）

《特別支援学校学習指導要領 国語Ａ聞くこと・話すこと１段階及び２段階イ・ウ，３段階イ・カ》

③小集団での活動を通して，異学年の仲間を意識したり，協力したりしながら楽しく学習することができる。教師の援助を受け入れたり，求めたりしながら，自分の思いを伝えることができる。

《特別支援学校学習指導要領 生活 カ 役割》

情緒学級

①経験したことや考えたことから伝えたいことを明確にして，言葉で表現する。（全学年）

基本的なタブレット端末の操作ができる。（低・中）

タブレット端末を活用し，相手にわかりやすい伝え方を考えることができる。（高）

《 小学校学習指導要領 国語 （１）ア・オ B書くこと ア 》

②身近なことや経験したことから話題を決めて，相手に伝えることができるようにする。（低・中）

ICT や本を活用して必要なことを調べ，相手に伝えることができる。自分の立場を考えて発言したり，意見をまとめたりできるようにする。（高学年）

《 小学校学習指導要領 国語 A話すこと・聞くこと ア・エ（低・中）エ・オ（高） 》

③学習に興味をもち，相手とコミュニケーションをとろうとすることができる。（低・中）

意欲をもって学習に取り組み，グループの中で場や相手の状況に応じたコミュニケーションをとろうとすることができる。（高）

《 特別支援学校学習指導要領自立活動３人間関係の形成（４）６コミュニケーション（２）（５） 》

４．児童の実態と個別目標（別紙）

５．単元計画

	月	学習活動と内容	○支援 ●評価の観点（知・情）
第一次	4 5 6 7	畑の計画 うね作り 苗植え付け 看板作り（スライド） 観察日記（スライド） 発表し合う 調理計画 調理（カレー・梅ジュース）	○単元計画を掲示して，ゴールへの見通しと意欲がもてるようにする。 ○話し合いを取り入れ，育てたい野菜を決められるようにする。 ○並行図書を用意する。 ○ICTを活用した活動で，興味を持てるようにする ○自分で観察したい野菜を決め，意欲を高められるようにする。 ○長さ・重さの学習を並行して行う。 ○事前にスライドの型や表情マークを用意して，一人一人が選んで入力できるようにしておく。 ○学年毎の役割分担を事前に確認する。 ●言葉や表情マークで観察したことや自分の気持ちを表現しているか。（知・情） ●友達と協力して楽しく学習できているか。（知） ●一つ一つの活動に意欲的に参加し，友達と適切なコミュニケーションをとっているか。（情）
第二次	9 10 11 12	落花生の計画 グループ分け グループ名・話し合い 看板作り 落花生について調べる （ジャムボード，思考ツールYチャート） 収穫・準備 （干す・殻をむく・煎る）	○単元計画を掲示して，ゴールへの見通しと意欲がもてるようにする。 ○七小のみんなに発表することをゴールとして示し，意欲が継続するようにする。 ○グループは学年やタブレット端末の操作を考慮して決めておく。 ○ICTを活用した調べ学習や話し合いでは，活動しやすいように事前に枠を作ったり，入力の約束を示したりする。 ○事前にスライドやジャムボードの型や見本を用意して，一人一人が入力したり，選んだりできるようにしておく。 ○料理等の見本をいくつか用意してイメージがわくようにする。

本時		殻を再利用する 料理を決める (ジャムボード, 思考ツール・イメージマップ) 動画作り (スライド, 動画アプリ) 調理 発表 ふり返り	○材料の計算など算数の学習を並行して行う。 ○話し合いの前に自分の思いや考えをまとめるワークシートを用意する。一人一人に合わせていくつか用意し、選んで使えるようにする。 ○高学年が中心となって話し合いができるように支援していく。 ○話し方や聞き方の良い例を提示したり, 練習したりしていく。 ○動画作りでは, 一人一人が役割をもてるよう話し合いの際には支援に入る。 ○自分が作ったものを見直して, 相手により伝わりやすい表現を考えられるようにする。 ○各クラスで動画を発表することをゴールとして, 意欲を継続できるようにする。 ○グループの良かった点を〇〇賞として意欲化を図る。 ○ふり返り際には, 他のグループの良いところを伝え合えるようにしていく。 ●伝えたいことを思い浮かべ, 自分なりに伝えることができるか。相手の話に関心を持ち, 思いや考えを受け止めることができるか。(知) ●自分の考えや思いを友達や教師に言葉で伝え, 友達の考えを受け入れようとしているか。(情) ●場に合った適切な話し方や伝え方ができているか。(情) ●友達と協力して楽しく学習できているか。(知) ●一つ一つの活動に意欲的に参加し, 友達と適切なコミュニケーションをとっているか。(情)
第三次	1 2 3	ポップコーンの計画 販売 買い物 まとめ	○単元計画を掲示して, ゴールへの見通しと意欲がもてるようにする。 ○ICTを活用した言語活動では, 活動しやすいように事前に枠を作ったり, 入力 of 約束を示したりする。 ○お金の学習を並行して行う。 ●話し合いや販売の役割を持ち, 自分なりに伝えることができるか。相手の話に関心を持ち, 思いや考えを受け止めることができるか。(知) ●グループで協力して話し合い, 計画・実行できているか。高学年は話し合いの中心になっているか。(情) ●友達と協力して楽しく学習できているか。(知) ●一つ一つの活動に意欲的に参加し, 友達と適切なコミュニケーションをとっているか。(情)

6. 本時の指導

(1) 目標

知的学級

- ・伝えたいことをグループの友達に自分なりの方法で伝えることができる。(1・2・3段階)
- ・グループの友達に注目し、話を聞くことができる。(3段階)
- ・グループの仲間を意識して楽しく学習することができる。(1・2・3段階)

情緒学級

- ・伝えたいことをグループの友達にわかりやすく伝えることができる。(全学年)
- ・低学年や中学年の意見を聞いて取り入れようとするすることができる。(高学年)
- ・授業の流れに沿って、グループの中で友達と協力して学習することができる。(全学年)

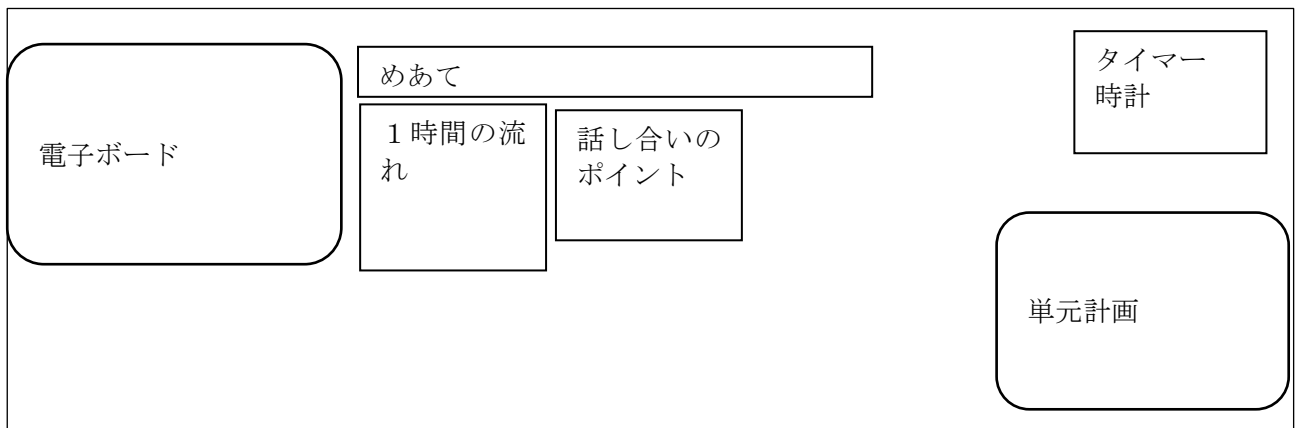
(2) 個別の目標(別紙)

(3) 展開

過程	学習活動と内容	○指導・支援 ◇評価(知・情) ◎個別の支援・合理的配慮	備考
見出す 10分	1. 学習の準備をする。 ・前時までの内容、単元計画の確認をする。	○学習の準備ができているか確認する。 ○1時間の流れを掲示して、ゴールまでの見通しをもたせる。 ○場の設定を指示する。 ○グループの看板を渡す。	
	2. 学習の流れとめあてを確認する。 ㊦ グループで作るらっかせいりょうりをきめよう。	○具体的なめあてを示す。(掲示) ○今日は決められなくてもよいことを伝える。 ○立って話してもよい。画面を皆で共有する。 ○話し合いの時間をタイマーで設定する。	
自分で取り組む 20分	3. 本時の活動に取り組む。 ・自分が選んだ料理を確認する。 ・ワークシートをもとにグループの友だちに伝える。 ・思考ツールに入力する。	○事前に用意した個別のワークシートを手元に準備する。 ○話す順番を決める際には助言する。 ◎話すことが苦手な児童は、間に入って支援する。ワークシートを見せたり、指をさしたりして友達に伝えることができるようにする。(1年T・T, 3年O・H, U・T, 4年Y・I, 6年D・R) ○グループ代表のタブレット端末を立ち上げる。 ◎ローマ字表を渡す。ローマ字表を指さしして入力させる。(3年U・T, O・H, 4年K・M, Y・I, 5年J・M・S, H・Y, 6年D・R) ◎1・2年生はタブレットリーダーや教師と一緒に入力する。高学年は、ひらがなで入力させる。 ◎書き間違いがないか確認して直す。(3年O・H, 4年K・M, 6年D・R)	
広げ深める 10分	・話し合いをする。	○話し合いのポイントを示す。(掲示) ○話し方・聞き方の確認をする。 ○高学年やリーダーが中心となって話し合いをさせる。付箋を動かすよう指示する。 ◎付箋を動かすときは、グループの一人一人の意見を聞くように支援をする。(4年K・M, 5年J・M・S, 5年H・Y, 5年S・H, 5年T・K, 6年B・R, 6年K・M)	

ま と め あ げる 5 分	・ 報告をする。 ・ ふり返りをする。	◎話が自分中心にならないように、良い手本や言い方を示す。(4年K・M, 5年T・K, 5年H・Y) ◎やるべきことから興味がそれないように声をかける。(1年H・S, 5年J・M・S, 5年T・K) ○早く終わられたグループには、詳しい作り方をみるように指示する。 ○リーダーにグループの進捗報告をさせる。 報告項目を伝える。(どのような料理(話)ができたか。料理は決まったか。1分くらいで話す。) ◎話し方の見本を用意しておく。 ○全員でふり返りをする。できた項目に○をつける。 ◇伝えたいことを自分なりの方法で伝えることができたか。(知) ◇グループの友達に注目して話を聞くことができたか。(知・3段階) ◇グループの仲間を意識して楽しく学習することができたか。(知) ◇自分の思いや考えをグループの友達にわかりやすく言葉で伝えることができたか。(情) ◇グループで話し合いの中心的な役割をして、意見をまとめようとすることができたか。(情・高学年) ◇最後まで授業の流れに沿って、友達と協力して学習することができたか。(情)	
-----------------------------------	--	---	--

(4) 板書計画



場の設定

